

「わが魂はただ神を待つ」

(詩篇 62 の 2-3)

わが魂は、黙してただ神をまつ。

わが救は神から来る。

神こそわが岩、わが救、わたしは決して動かされることはない。

For God alone my soul waits in silence; from him comes my salvation.

He alone is my rock and my salvation , I will never be shaken.

誰でも、生きているかぎり、予想できなかった苦難や困難な問題に直面する。

そのような時、何によってその困難を乗り越えようとするだろうか。東日本大震災のように、家も畑も流され、仕事の場をも失ったというような場合、助けは、主として行政の力によってなされる。それによって一応の衣食住など生活に関することは保障される。

けれども、愛する家族や友人、あるいは農業など何十年もその仕事にかけてきた場合は、そうした保障を受けても心のなかの深い傷や空虚感は行政などではどうすることもできない。

そのような深い魂の空虚を満たすものは、この詩にあるように、ただ神だけである。そうした苦しみや悲しみをいやし、さらに新たな力を与えて立ち上がらせることのできるのは、目に見えるもの、人間などを超えたお方による他はない。

この詩の作者にとってそのようなお方、神がおられるということは、確かな実感であり、現実の力となった。そして、聖書はこの詩の作者だけでなく、その巻頭の創世記から終わりの黙示録まで、そうした現実の力があることを至るところで証言している。

その力を与えられるためには、ただ神を信じ、神が地上に送られたキリストを信じるだけで足りる。この世の力は、まず政治や裁判にしても多数が言わねば聞かれないことが多いし、金の力や、ある程度の健康—組織などに訴えたり働きかけるために—、資格等々がなかったら助けも与えられないとかいうことも多い。

しかし、神の力を受けるには、ただ、信じて求めるだけでよい。これは何という大きな恵みであろう。「求めよ、そうすれば与えられる。門をたたけ、そうすれば開かれる。」というキリストの有名な言葉は、こうした神からの力を受けることに関して最もよく成り立つ。

この詩の作者も、その力を与えられるためにしたことは、何も特別なことではなかった。ただ助けを与えられる神を信じ、黙して真剣に求めた。

沈黙、それは時として大いなる霊的な武器となる。軍事力、人間の多数の力などとは根本的に異なる神からの力を受けるからである。

主イエスがしばしば弟子たちや人々からも離れ、夜を徹して祈られたのも、沈黙のなかから不動の岩なる神につよく結びつき、そこから力を与えられるためであり、その力をまた周囲の人々に分かつためであった。

私たちもまた、揺れ動いてやまないこの世界のただ中であって、主の前に黙し、岩のごとき存在たる神からの力を与えられたいと願うものである。



ルリトラノオ(琉璃虎の尾)

ゴマノハグサ科 伊吹山 2010.8.6

このルリトラノオは、青い花が下から順に穂のようになって咲いていき、伊吹山特産とされています。(左に見える赤い花はアカソという野草です。)高さは0.5～1m程度。トラノオの仲間はいくつもあり、白い花が垂れ下がって咲くオカトラノオが低い山にも時折みかけることがあります。これに似たものは、クガイソウ(九蓋草、九階草)、ヤマルリトラノオなどがありますが、クガイソウは、葉が輪生する(*)のですのですぐに区別がつけます。ヤマルリトラノオは、日本海側の近畿以北の標高2000m前後の亜高山帯に分布とのことです。私は、北海道で海岸の崖上に咲いているのを見たことがあります。北海道では本州の高山植物がしばしば

低山や平地に見られます。

(*)植物の葉が茎を囲むように輪状になっていること。

いずれにしてもオカトラノオ以外は、概してやや高い山でないと見られないため、一般の人にとっては親しく目にすることができないものです。

高い山にはこのような美しい色合いをもった花が咲くこと、このことは、吹きわたる風の清々しさ、溪谷の美しさなどに加えて、山地の雰囲気をついそう聖なるものにしてしています。寒さや風雪などの厳しさの中に咲くものは、やはり平地のものと異なる雰囲気をたたえたものが多いと感じます。これは、人間世界にも言えることだと思われたことです。

(写真、文: T.YOSHIMURA)